

# OALD10 活用ガイド

## 辞書編

執筆：山田 茂

はじめに .....	2
学習英英辞典を使う意義 .....	2
第 1 部 OALD10 について	
1 OALD10 の特長 .....	4
2 OALD10 の見方と使い方 .....	5
3 略語・ラベル .....	12
第2部 OALD10 の活用法	
1 OALD10 を使い読むー「辞書検索の7ステップ」に沿って .....	13
2 OALD10 を使い書く .....	20
3 OALD10 を使い話す .....	23
4 OALD10 を使い語彙を増強する .....	25

執筆：山田 茂（やまだ しげる）

早稲田大学教授

日本英語表現学会理事、日本実用英語学会理事、アジア辞書学会理事、同学会ジャーナル *Lexicography* 共同編集長

専門は英語学・辞書学

主な業績：『ライトハウス和英辞典』（第5版、2008年、研究社、編集委員）、“Monolingual Learners’ Dictionaries – where now?” (*Bloomsbury Companion to Lexicography*, Ch. 4.5, 2013)、『学習英英辞典活用の手引き：英語教育における効果的な辞書指導のヒント』（2014年、オックスフォード大学出版局）、『英語辞書をつくる：編集・調査・研究の現場から』（2016年、大修館書店、共編著）、*Oxford Companion to the English Language*（第2版、2018年、執筆）

2020年6月11日作成、2021年11月22日一部改訂

制作：株式会社 旺文社 編集協力・デザイン・組版：株式会社 シー・レックス

©Obunsha Co., Ltd. 2020（許可なしに転載、複製することを禁じます）

本文中に登場する会社名や商品名は一般に各社の商標または登録商標です。

*Oxford Advanced Learner’s Dictionary* ©2020 Oxford University Press, Oxford, UK All rights reserved.

Reproduced by permission of Oxford University Press ©Oxford University Press (2020)

## ■ はじめに

英英辞典には2種類ある。ネイティブスピーカー向けのもの（日本人のための国語辞典に相当する）と、外国人学習者向けのものだ。英語を学ぶ日本人がまず使うべきは後者の「学習英英辞典」だ。その中で最も売れている辞書は何か。『オックスフォード現代英英辞典』（*Oxford Advanced Learner's Dictionary* [OALD]）である。この辞書は世界的な大ベストセラーで、これまでに実に4,000万部以上が刊行されている。これには理由がある。OALDが最も伝統のある学習英英辞典だからだ。

最初の本格的な学習英英辞典は、実は日本で生まれている。1942年に開拓社より出版された *Idiomatic and Syntactic English Dictionary* がそれだ。この辞書は、当時英国より招聘され日本の英語教育に携わっていたホーンビー（A. S. Hornby）ほかにより編纂された。この辞書は、後にオックスフォード大学出版局に著作権が買われ、*Oxford Advanced Learner's Dictionary* と改名され、改訂を重ね今日に至っている。現在、多くの携帯型の電子辞書にも搭載されているので、日本人にとって最も馴染みのある学習英英辞典と言ってもよいだろう。

その記念すべき第10版（以下OALD10）がこの度出版された\*。学習英英辞典は検索のみならず、英語学習、教授のための極上のリソースなのだが、今回の改訂の主眼は「語彙増強」と「スキル向上」の強化と言ってよい。改訂されたThe Oxford 3000™に含まれる項目の記述は拡充され、語義のレベルでThe Common European Framework of Reference (CEFR, ヨーロッパ言語共通参照枠) に基づいたレベルが表示されている（→p. 6 参照）。The Oxford 3000™の次のレベルのThe Oxford 5000™、The Oxford Phrasal Academic Lexicon™ (OPAL) が新たに導入され、学習者、教師に語彙学習の指針を示す（→p. 6 参照）。そして、Oxford Writing Tutor、Oxford iWriter、Oxford Speaking Tutor、Oxford iSpeaker、その他アプリでも使えるリソースやアクティビティーも加わり、英語でのコミュニケーション能力向上に役立つ機能が更に充実した。使用者諸氏が検索、学習、教育の場面でOALD10を使いこなし、加えてこの辞書を楽しむために、本ガイドが参考になれば幸いである。

\*OALDは、1995年からは5年ごとに改訂されている。このレベルで定期的に改訂されている学習英英辞典はOALDだけである。

## ■ 学習英英辞典を使う意義

世の中にあまた存在する辞書の中で、最もレベルが高く、最も進んだジャンルの辞書は何か。学習英英辞典である。英語の世界語としての地位の確立を背景に、グローバルなEFL辞書\*市場に、オックスフォード大学出版局に続き英国の出版社が相次いで参入し、熾烈なシェア争いが展開されてきた。その過程で、英語教育の知見、語彙論、辞書学、コーパス言語学などの成果を積極的に取り入れ、よりよい辞書を作る努力が積み重ねられてきた。数々の新機軸が導入され、改善が図られてきた結果、学習英英辞典には質の高い情報がわかりやすく提示されるようになり、その学習効果は高まった。

\*EFLはEnglish as a foreign languageの略だが、「EFL辞書」は狭義で「外国人学習者のための英英辞典」（学習英英辞典）を指す。

## ▶ 質の高い情報

現在の辞書作りはコーパスなくして語ることができない。コーパスとは、コンピューターでの分析が可能な巨大な言語データベースだ。コーパスはネイティブスピーカーが普段目、耳にする新聞、雑誌、音声、インターネット上の資料などから構築され、その言語がどのように使われているかが頻度を基に分析される。学習英英辞典の編集においては、1990年代半ば以降、コーパス準拠が標準となっている。オックスフォード大学出版局では、20億語からなるOxford English Corpusを分析することにより英語の実像に迫ろうとしている。その分析結果——新語、新語義、使用パターン（はやっている語法、廃れている語法、英語の特定の変種で顕著な語法など）——が証拠（用例）と共に辞書の各項目に示されている。これに加え、長年の伝統、英語教育の実践、ラーナーコーパスの分析に裏打ちされた、外国人学習者に有用な情報も散りばめられている。

## ▶ わかりやすい情報提示

いかに情報の質がよくても、使用者が使えなければ意味がない。辞書学においては「使用者研究」(user study) が活発に行われ、「使用者の視点」(user perspective) が重視されてきた。難しそうと、とにかく敬遠されがちな英英辞典だが、こと学習英英辞典に関しては外国人学習者の使用の便を考えさまざまな工夫が施されている。意味を調べるために引いたのに、定義(意味の説明)にわからない語句が出てきて、またそれを引き直さなければならない、というようなありがちな堂々巡りは極力起こらないように配慮されている。定義は基本的な2000～3000語の定義語彙でなされ、これ以外の語が使われる場合\*は、直後にかっこに入ったパラフレーズが示されることがある。定義はかつて見出し語と入れ替え可能な句の形でなされることがふつうだったが、その中に多くの情報を盛り込もうとするあまり、文法的に複雑でわかりづらいものもあった。しかし現在は、「読んですぐにわかる」フルセンテンス形式の文定義が多用されている(→p. 17 文定義 参照)。

\*OALD10では定義は基本的にThe Oxford 3000™で書かれているが、部分的に数字、固有名詞、学習・文法用語も使われている。これら以外の語句が使われる場合は、書籍では大文字で、アプリ・Webでは緑色で表示されている。

また、意味の記述がいかにわかりやすくても、求めている意味を探せなければ辞書は用をなさない。事実、すべての情報が外国語で与えられている学習英英辞典において、多義語(複数の語義を持つ語)の検索が使用者を悩ませてきた。そこで1990年代半ばから、これを助ける言わば「意味の小見出し」(OALDでは「ショートカット」と呼ぶ; →p. 7, p. 16 4 [解説] 参照)が多義語の各語義に付けられるようになった。使用者は、このショートカットに目を通すことにより、長い多義項目を最初から最後まで丹念に見ることなく、見当をつけて語義を特定できるようになった。また、使いやすさ(user-friendliness)が強調され、難解な記号・略号はスペルアウトされるようになり、フォントやレイアウトも工夫されている。

## ▶ 高い学習効果——英和辞典との違い

本ガイドをご覧の皆さんは、すでに英和辞典を使いこなしているだろう。ここでは英和辞典と比べることにより、学習英英辞典の効果を探ってみよう。

英英辞典と英和辞典は、見出し語が英語であることは同じだが、それに対し、英語の定義と日本語の訳語を与えている点が大きく異なる。英語と日本語はかけ離れた言語で、基本的に語彙レベルでの一対一の対応関係はない。つまり、英語の見出し語と日本語の訳語との間には意味のズレが存在する。英和辞典は、複数の訳語を与え、その最大公約数で英語の意味を映し出そうとしたり、注記で日本語の意味に限定を加えることにより、この意味のズレの問題に対処している。

他方、英英辞典では英語で見出し語の意味を定義している。英語の定義に触れることにより意味の核心に迫り、英語を英語のシステムの中で学ぶことができる。英和辞典には選りすぐりの日本語訳が与えられているが、致し方なく限定的であり、使用者が遭遇する文脈、フィーリングに常に適合するとは限らない。英和辞典に飽き足らなくなった使用者層は、ぜひ学習英英辞典を参照してほしい。日本語の束縛から離れ\*、英語の定義、用例から見出し語の本質をとらえ、得られた情報を目の前にある文脈に当てはめ、自分の感性により解釈することが可能になる。また英語の定義はパラフレーズの参考になり、発信にも応用できる(→p. 17 名詞の定義の基本構造 参照)。




\*「conscientious = 良心的な」で満足していないだろうか。OALD10でconscientiousを引いてみると、ちっぽけな項目だが、この形容詞に関する理解がぐっと深まる。

**con-scientious** /kənʃiˈenʃəs; NAmE ˌkɑːn-/ *adj.* **taking care to do things carefully and correctly; a conscientious student/teacher/worker** ▶ **con-scientiously** *adv.* She performed all her duties conscientiously. **con-scientiousness** *noun* [U]

日本人英語学習者にとっては、この2種類の有用な英語辞書の特徴を理解し、適宜使い分けることが得策だ。その過程で、英語力、検索技術を磨くことにより、後者の使用範囲を広げていくことが肝心である。

# 第1部 OALD10 について

## 1 OALD10 の特長

OALD10は書籍本体（）とWeb（）およびアプリ（）で構成される\*。購入者専用サイトは本体添付のコードによってログインできる。

\*Oxfordのサイト（<http://www.oxfordlearnersdictionaries.com>）でも同様の辞書機能を使うことができるが、購入者専用サイトに登録することにより、iWriterやiSpeakerといった機能も使用できる。

OALD10は、第9版より1,000以上の新語・新語義\*が追加され、228,000以上の見出し語、語句、語義、109,000以上の用例を収録している。主な特長を以下に挙げる。

		Oxford Speaking Tutor	スピーキングの実例とヒント	→ p. 24
		Oxford iSpeaker	発音練習、会話、試験対策でのスピーキング力を強化。録音機能付き	→ p. 23
		Oxford Writing Tutor	ライティングの解説と実例	→ p. 21
		Oxford iWriter	ステップバイステップでライティングを指南	→ p. 21
New		Text Checker	入力した文、文章の単語をCEFRのA1～C1のレベルに分析	→ p. 26
	  	Express yourself	場面別の有用な口語英語表現集	→ p. 10
	  	Wordfinder	表現の幅を広げる関連語のリスト	→ p. 11
	 	More like this	一緒に覚えるべき、同じカテゴリーに属する語句のリスト	→ p. 11
		My Word Lists	単語・定義の登録機能。テスト機能付き	→ p. 26
	  	The Oxford 3000™	学習者が最初に学ぶべき最重要語3000語。基本的に定義もこの枠内で書かれている。該当する語句、語義にCEFRのレベルが表示される	→ p. 5
New	  	The Oxford 5000™	The Oxford 3000™に次ぐ重要語2000語を追加。該当する語句、語義にCEFRのレベルが表示される	→ p. 6
New	  	The Oxford Phrasal Academic Lexicon™ (OPAL)	アカデミックイングリッシュの必修語句	→ p. 6
New		Oxford Phrase List	頻出する650のフレーズのリスト	→ p. 6
	  	Visual Vocabulary Builder	ボキャビル用テーマ別絵辞典	→ p. 25
		Resources	動画とワークシートによる辞書の使い方ガイド、レッスンプラン、More like thisのワークシート	
		Favourites	フォルダーを作り、お気に入りの単語を登録できる機能	→ p. 26
New		Quiz	語彙に関するクイズ	→ p. 26
New		Word of the Day	1日に一つの単語が送信される	→ p. 26

\*以下のような語句・語義が追加された：agile（ビジネスに関する語義）、cosplay、cryptocurrency、hygge（デンマーク語から）、laggy、microbeads、tempeh（インドネシア語から）、unlike（動詞）

複合名詞：comparison shopping、keyboard warrior

略語：FOMO（fear of missing out）、ICYMI（in case you missed it）

句動詞：call sb out (on sth)、hone in on sth

イディオム：from the ground up、go with your gut



## 2 OALD10 の見方と使い方

### ▶ 書籍の構成

表紙裏： 略号、記号、ラベル一覧

前付： Key to dictionary entries (pp. vii-ix)、The Oxford 3000™ and Oxford 5000™ (p. x)、The Oxford Phrasal Academic Lexicon™ (p. xi)、Numbers (p. xii)

辞書本文： A-Z (pp. 1-1820)

巻末付録： Oxford Writing Tutor (WT1-30)、Oxford Speaking Tutor (ST1-10)、Visual Vocabulary Builder (V1-56)

[参照用資料] Irregular verbs (R1-3)、Verbs (R4-7)、Phrasal verbs (R8-9)、Nouns and adjectives (R10-11)、Collocation (R12)、Idioms (R13)、English across the world (R14-15)、British and American English (R16)、Punctuation (R17-19)、Numbers (R20-23)、Geographical names (R24-27)、Acknowledgements (R28-29)、Pronunciation and phonetic symbols (R30-31)

### ▶ 項目の構成

#### 見出し語

各項目の先頭に太字で示されているのが見出し語で、複合語（ハイフンでつながれているものも含む）を含め、アルファベット順に配列されている。

#### 項目

見出し語で始まり、見出し語に関する記述がなされているまとまりを項目という。

#### 複数の品詞を持つ見出し語

ある項目が複数の品詞にまたがる場合は、発音記号の後にそれらが示される。そして同一見出し語の下、品詞ごとに扱われる。

アプリ・Web では各品詞は独立して扱われている。

#### 同綴異義語

肩番号を伴い、別見出しとして立てられる。

#### 異綴り

スペリングにバリエーションがある場合は、一般的なものが見出し語として立てられ、そうでないものは主見出しの後、カッコに入れ示される。カッコの語は、アルファベット順の場所に空見出しとして立てられる。

#### 派生語

派生語は、意味が明確で、頻度が低い場合は、派生元の見出し語の項目の最後に示される。

#### The Oxford 3000™

学習者が最初に学ぶべき 3000 語であり、辞書の定義も基本的にこれらの語で書かれている (→ p. 3 わかりやす

**book-bind-er** /'bukbændə(r)/ *noun* a person whose job is fastening the pages of books together and putting covers on them ▶ **book-binding** *noun* [U]

**book-case** /'bukkeɪs/ *noun* a piece of furniture with shelves for keeping books on ▶ **VISUAL VOCAB** page V36

**book club** *noun* **1** an organization that sells books cheaply to its members **2** = BOOK GROUP

**blind-fold** /'blaɪndfəʊld/ *noun, verb, adv.*

■ **noun** something that is put over sb's eyes so they cannot see

■ **verb** ~sb to cover sb's eyes with a piece of cloth or other material so that they cannot see: *The hostages were tied up and blindfolded.*

■ **adv.** (BrE) (also **blind-fold-ed** BrE, NAmE) with the eyes covered: *The reporter was taken blindfold to a secret location.* ◇ *I knew the way home blindfold* (= because it was so familiar). ◇ *I could do that blindfold* (= very easily, with no problems).

**gill**<sup>1</sup> /gɪl/ *noun* [usually pl.] one of the openings on the side of a fish's head that it breathes through ▶ **VISUAL VOCAB** page V14

**IDM** ▶ **to the 'gills** (informal) until completely full: *I was stuffed to the gills with chocolate cake.*


**gill**<sup>2</sup> /dʒɪl/ *noun* a unit for measuring liquids, equal to 0.142 of a LITRE in the UK and some other countries, and 0.118 of a LITRE in the US. There are four gills in a PINT.

**ban-is-ter** (also **ban-nis-ter**) /'bænɪstə(r)/ *noun* (BrE also **ban-isters** [pl.]) the posts and RAIL that you can hold for support when going up or down stairs: *to hold on to the banister/banisters* ▶ picture at STAIRCASE

**ban-nis-ter** = BANISTER

**be-lated** /brɪ'leɪtɪd/ *adj.* coming or happening late: *a belated birthday present* ▶ **be-lated-ly** *adv.*

い情報提示 参照)。今回、最新のデータに基づき改訂された。これら 3000 語の辞書項目も改訂され、頻度の高い文法的パターン、コロケーション、用例がより多く収録されている。


The Oxford 3000™ は、見出し語の文字が大きく、鍵のマーク  付きで示されている。鍵のマークは、該当する語義にも示されている。

また、The Oxford 3000™ は、「使用頻度」と「妥当性」に基づいて選定されている。使用頻度は、Oxford English Corpus の分析による。しかし、外国人学習者が必要とする語は、汎用コーパスにおける高頻度語だけではない。学習に「妥当な」語は、オックスフォード大学出版局の教科書から構築されたコーパスの分析によっても導き出され、これらの語の他に、場所や物を示す日常語、感情を表す語、学習用語等も含まれている。

\*The Oxford 3000™ リストにアクセスするには

<http://www.oxfordlearnersdictionaries.com/wordlists/oxford3000-5000>

### The Oxford 5000™

The Oxford 3000™ に上級学習者のための重要語 2000 語を追加した 5000 語。今回、新たに設けられた。該当する見出し語、語義にはプラス付きの鍵マーク  が示されている。

\*The Oxford 5000™ リストにアクセスするには

<http://www.oxfordlearnersdictionaries.com/wordlists/oxford3000-5000>

### CEFR

ヨーロッパで用いられている、言語を使って何ができるかの基準。A1 (初歩) ~ C2 (最上級 [ネイティブレベル]) までの6段階が設定されている。OALD10 では、The Oxford 3000™ に該当する見出し語、語義に **A1**、**A2** (初級)、**B1** (中級)、**B2** (準上級) が、The Oxford 5000™ に該当する見出し語、語義に **B2** または **C1** (上級) が示され、学習の指針を与えている。

### The Oxford Phrasal Academic Lexicon™ (OPAL)

普通の英語と講義や論文で使われる英語は違う。OPAL は、学習者が受信、発信に使える、また使うべきアカデミックイングリッシュの語句を集めたもので、以下の二つのコーパスに基づいて割り出されている：

Oxford Corpus of Academic English (OCAE) : 7100 万語。オックスフォード大学出版局から出版された物理学、生命科学、社会学、人文学の教科書からなる

British Academic Spoken English (BASE) : 120 万語。講義やセミナーなど、話し言葉のアカデミックイングリッシュのコーパス

OPAL は、書き言葉と話し言葉、単語とフレーズの組み合わせからなる計 4 つのアカデミックイングリッシュのリストからなる。書き言葉リストは 12 のサブリスト、話し言葉リストは 10 のサブリストからなる。それぞれのサブリストは 100 語からなり、Sublist 1 が最も重要なアカデミックイングリッシュを含んでいる。書き言葉のフレーズリストは 15 の機能に、話し言葉のフレーズリストは 16 の機能に分けられている。

OPAL のリストは以下からアクセス可能で、リストから OALD、Oxford Learner's Dictionary of Academic English の項目を検索できる：

<http://www.oxfordlearnersdictionaries.com/wordlists/opal>

OALD10 では、OPAL の書き言葉リストに含まれる見出し語に **W**、話し言葉リストに含まれる見出し語に **S**、両方に含まれる見出し語に **WS** のマークが付いている。

### Oxford Phrase List

学習者が知っておくべき、頻出する 650 のフレーズのリスト。イディオム、句動詞、コロケーション、前置詞句、複合名詞からなり、A1 ~ C1 までの CEFR のレベルも表示されている。

\*Oxford Phrase List にアクセスするには

<http://www.oxfordlearnersdictionaries.com/wordlists/oxford-phrase-list>

## 発音

イギリス英語も、アメリカ英語も、地域色の少ない最も一般的な発音が示されている。複数の発音がある場合は、一般的なものが先に示されている。英米で発音が異なる場合は、英音、米音の順に示される。

## 強勢の表示

第一強勢を示す上付きのバー、第二強勢を示す下付きのバーが、音節の先頭に付されている。

## 不規則動詞

不規則動詞の活用形は、発音と共に示される。活用表は巻末付録 (R1-3) を参照のこと。

## 形容詞・副詞の最上級・比較級

形容詞・副詞の最上級・比較級もスペルアウトされている。

## ショートカット

多義語の検索を容易にするために、多義語の各語義に付けられた「意味の小見出し」。おおまかな意味やコンテキストなど。

## 定義

見出し語の意味の説明で、句または文形式でなされている。OALD10 では The Oxford 3000™ および部分的に数字、固有名詞、学習・文法用語で書かれ、これ以外の語が使われる場合は、書籍では大文字で、アプリ・Web では緑色で表示されている。

## 選択制限

ある語がどのような種類の語と共に使われるかの範囲で、通例、定義内にかっこに入れ示される。ショートカット、定義文中に示される場合もある。

## コロケーション

よく見出し語と共に使われる前置詞、副詞などは、定義に先行して太字で表示される。

## 用例

コーパスデータに基づき、見出し語の典型的な使用例がイタリック体で示される。よく使われるパターンは、用例に先行し太字で示される(→ p. 8 参照)。また、よく使われるコロケーション、成句は用例中太字で強調表示される。

## ラベル

ラベルが各語義に示される。(→ p. 12 参照)

**contro-versy** **ʔ+ B2** /kən'trɒvɜːsi, kən'trɒvəsi; NAmE 'kɑːntrəvɜːrsi/ noun [U, C] (pl. **-ies**) **~(over/about/surrounding sb/sth)** public discussion and argument about sth that many people strongly disagree about, think is bad, or are shocked by: **to arouse/cause controversy** ◇ **a bitter controversy over/about** the site of the new airport ◇ **the controversy surrounding** his latest movie ◇ **The President resigned amid considerable controversy.**

**com-mu-ni-cation** **ɪ B1** **o** /kə'mjuːniːkeɪʃn/ noun **1 ʔ B1** [U] the activity or process of expressing ideas and feelings or of giving people information: **~between A and B** Good communication between team

**cling** **ʔ+ C1** /klɪŋ/ verb (**clung, clung** /kɪŋ/) **1 ʔ+ C1** [I] to hold on tightly to sb/sth: **~to sb/sth** survivors **clinging to a raft** ◇ **~on to sb/sth** She **clung on to** her baby. ◇ **~on** **Cling on tight!** ◇ **~together** They **clung together**, shivering with cold. **o** **SYNONYMS** at HOLD **2 ʔ+ C1** [I] to stick to sth: a dress

**hearty** /'hɑːti; NAmE 'hɑːti/ adj., noun **■ adj. (heartier, heartiest) 1** [usually before noun] showing friendly feelings for sb: **a hearty welcome** **2** (sometimes disapproving) loud, cheerful and full of energy: **a hearty and boisterous fellow** ◇ **a hearty voice** **3** [only before noun]

**com-mu-ni-cate** **ɪ A2** **o** /kə'mjuːnɪkeɪt/ verb **■ EXCHANGE INFORMATION 1 ʔ A2** [I, T] to share or exchange information, news, ideas, feelings, etc: **We only communicate by email.** ◇ They **communicated in** sign language. ◇ **Candidates must be able to communicate effectively.** ◇ **~with sb/sth** Dolphins use sound **to communicate with each other.** ◇ **~sth** In times of uncertainty, a leader must be able **to communicate a message of hope.** ◇ **~sth to sb** He was eager **to communicate his ideas to** the group. ◇ Her nervousness was **communicating itself to** the children. ◇ **~how/what, etc...** They failed **to communicate what was happening and why.** **o** **SYNONYMS** at TALK **■ IN A RELATIONSHIP 2 ʔ A2** [I] to have a good relationship

**bleak** /blik/ adj. (**bleaker, bleakest**) **1** (of a situation) not giving any reason to have hope or expect anything good: **a bleak outlook/prospect** ◇ **The future looks bleak for** the fishing industry. ◇ **The medical prognosis was bleak.** **2** (of the weather) cold and unpleasant: **a bleak winter's day** **3** (of a place) exposed, empty, or with no pleasant features: **a bleak landscape/hillside/moor** ◇ **bleak concrete housing** **▶ bleakly** adv.: 'There seems no hope,' she said **bleakly.** ◇ **bleakly lit corridors** **bleak-ness** noun [U]

**cling** **ʔ+ C1** /klɪŋ/ verb (**clung, clung** /kɪŋ/) **1 ʔ+ C1** [I] to hold on tightly to sb/sth: **~to sb/sth** survivors **clinging to a raft** ◇ **~on to sb/sth** She **clung on to** her baby. ◇ **~on** **Cling on tight!** ◇ **~together** They **clung together**, shivering with cold. **o** **SYNONYMS** at HOLD **2 ʔ+ C1** [I] to stick to sth: a dress that **clings** (= fits closely and shows the shape of your body) ◇ **~to sth** The wet shirt **clung to** his chest. ◇ **The smell of smoke still clung to** her clothes. **3 ʔ+ C1** [I] **~(to sb)** (usually disapproving) to stay close to sb, especially because you need them emotionally: **After her mother's death, Sara clung to** her aunt more than ever.

## 名詞

記号	訳（解説）	用例
[C]	可算名詞	I could hear a <u>dog</u> barking.
[C+sing./pl. v.]	集合名詞（単数形または複数形の動詞と共に使われる）	The <u>Government</u> has/have been considering further tax cuts.
[sing.]	単数形	Let me give you a <u>hand</u> with those bags.
[pl.]	複数形	No alcohol may be consumed on the <u>premises</u> .
[U]	不可算名詞	Can we make <u>space</u> for an extra chair?

## 形容詞

表示	訳	用例
[only before noun]	名詞の前のみ（限定用法）	one of the President's <u>chief</u> rivals
[not before noun]	名詞の前以外（叙述用法）	Are you nearly <u>ready</u> ?
[after noun]	名詞の後のみ	There will be games and prizes <u>galore</u> .

## 動詞パターン\*

動詞の使用パターンは太字で示され、通常用例の前に置かれる。同じパターンの用例が続く場合は、表示は繰り返されない。ただし、ある動詞が（特定の語義で）特定のパターンで使われる場合は、そのパターンが定義の前に太字で示される。

\* OALD10では verb frame と呼んでいる。

動詞	記号、パターン		用例
自動詞	[I]	（目的語を取らない）	He <u>sighed</u> .
	[I] + adv./prep. <sup>1</sup>	動詞＋副詞（句）／前置詞句	A group of swans <u>floated</u> by.
他動詞	[T] <sup>2</sup>	（目的語を取る）	She <u>cut</u> her hand.
	[T]~sb/sth	動詞＋人／物・事	Over 70 minutes of music can <u>be accommodated</u> on one CD. <sup>3</sup>
	[T]~sb/sth + adv./prep.	動詞＋人／物・事＋副詞（句）／前置詞句	I <u>hacked</u> the dead branches off.
	[T]~sb sth	動詞＋人＋物・事	I <u>sold</u> Jim a car.
連結動詞	+ adj.	動詞＋形容詞	His voice <u>sounds</u> hoarse.
	+ noun	動詞＋名詞	Elena <u>became</u> a doctor.
その他の動詞、動詞パターン	~sb/sth + adj.	動詞＋人／物・事＋形容詞	She <u>considered</u> herself lucky.
	~sb/sth + noun	動詞＋人／物・事＋名詞	I <u>consider</u> her a friend.
	~that ...	動詞＋that節	I <u>said</u> that he would come.
	~sb that ...	動詞＋人＋that節	Can you <u>remind</u> me that I need to buy some milk?
	~if, whether ...	動詞＋疑問詞節	I <u>wonder</u> if you can help me.
	~sb where, when, etc. ... <sup>4</sup>	動詞＋人＋疑問詞節	I <u>asked</u> him where the library was.
	~to do sth	動詞＋to不定詞	She never <u>learned</u> to read.
	~sb/sth to do sth	動詞＋人／物・事＋to不定詞	Can you <u>persuade</u> Sheila to chair the meeting?
	~sb/sth do sth	動詞＋人／物・事＋原形不定詞	I <u>watched</u> him eat his lunch.



~doing sth	動詞＋動名詞	She never <u>stops</u> talking!
~(sb/sth) doing sth <sup>5</sup>	動詞(＋人／物・事)＋動名詞	His religious beliefs <u>precluded</u> him/his serving in the army. <sup>6</sup>
＋ speech	動詞＋直接話法	'It's snowing,' she <u>said</u> .
~sb＋speech	動詞＋人＋直接話法	'Tom's coming to lunch,' she <u>told</u> him.

1. / はオプションを示す。
2. 他動詞は [T] で示されるが、すべての語義において他動詞で用いられる場合は、冒頭に *verb* とのみ表示される。
3. ほとんどの他動詞は受動態でも使われるので、~sb/sth の後に受動態の用例が示される場合がある。他動詞が受動態で用いられない場合は、定義の前に [no passive] と表示される。受動態で用いられる場合は受動態のパターンが示される。
4. etc. は、その他の可能性があることを示す。
5. ( ) は省略可能を示す。
6. 動名詞の主語は目的格または所有格で示される。目的格が一般的で、所有格はフォーマルな英語に限定される。

**confirm** <sup>1</sup> **B1** <sup>W</sup> /kən'fɜ:m; NAmE -'fɜ:rm/ **verb**  
**1** <sup>1</sup> **B1** to state or show that sth is definitely true or correct, especially by providing evidence: ~sth His guilty expression confirmed my suspicions. ◇ Rumours of job losses were later confirmed. ◇ She said she could not confirm or deny the allegations. ◇ ~(that) ... Police sources confirmed that ten people had been arrested at the march. ◇ ~what/when, etc ... Can you confirm what happened? ◇ **it is confirmed that ...** It has been confirmed that an official complaint was made to the council. **2** <sup>1</sup> **B2** to make a position,

**lack** <sup>1</sup> **B1** <sup>W</sup> /læk/ **noun, verb**  
**noun** <sup>1</sup> **B1** [U, sing.] the state of not having sth or not having enough of sth **SYN** dearth, shortage: ~(of sth) a lack of understanding/knowledge/information/experience ◇ He was suffering from a complete lack of confidence. ◇ **because of a ~ of sth** The project was abandoned because of a total lack of support. ◇ **due to (a) ~ of sth** He was released due to lack of evidence. ◇ **through ~ of sth** The trip was cancelled through lack of interest. **IDM** see TRY V.  
**verb** <sup>1</sup> **B1** **[no passive]** ~sth to have none or not enough of sth: to lack confidence/experience/resources/power ◇ The team lacked the skill to compete at the highest level. ◇ She has the natural ability that her brother lacks. ⇨ see also LACKING

## 句動詞

句動詞は、動詞の項目の終わりの **PHRV** の表示の下、アルファベット順に配列されている。

句動詞	表示	用例
自動詞	eat out (sb も sth もなし)	Do you feel like <u>eating out</u> tonight?
他動詞 (分離不可能)	bank on sb/sth (↔なし)	I'm <u>banking on</u> your help.
他動詞 (分離可能)	tear sth ↔ up	She <u>tore</u> the letter <u>up</u> . She <u>tore up</u> the letter. She <u>tore it up</u> . (目的語が代名詞の場合、She tore up it. は不可)

## イディオム

イディオムは、項目の終わりの **IDM** の表示の下、アルファベット順に配列されている。ただし、冠詞、代名詞などの機能語、sb/sth、かっこに入った省略可能語、スラッシュで区切られた語は除いて考える。

イディオムの収録場所は以下の通りである。

原則：最初の内容語（名詞、動詞、形容詞、副詞）の項目に収録される

〈例〉bury the hatchet → **bury** に収録

**hatchet** の項目には、**bury** への参照が指示されている：

**IDM** see BURY.

\* **head** の名詞の項目に、bury を含むイディオムが収録されていることを意味する。bury/hide your head in the sand が収録されている。

**bury** <sup>1</sup> **B1** /'beri/ **verb** (**bur-ies**, **bury-ing**, **buried**, **buried**)  
**DEAD PERSON** **1** <sup>1</sup> **B1** to place a dead body in the ground: ~sb/sth (+ **adv./prep.**) They killed her and buried her body. ◇ (figurative) Their ambitions were finally dead and buried. **2** ~sb (old-fashioned) to lose sb by death: She's 85 and has buried three husbands.  
**HIDE IN GROUND** **3** <sup>1</sup> **B1** to hide sth in the ground: ~sth buried treasure ◇ ~sth + **adv./prep.** The dog had buried its bone in the garden. ⇨ **HOMOPHONES** at BERRY  
**COVER** **4** <sup>1</sup> **B2** [often passive] to cover sb/sth with soil, rocks, leaves, etc: ~sb/sth (+ **adv./prep.**) The house was buried under ten feet of snow. ◇ ~sb/sth + **adj.** The miners were buried alive when the tunnel collapsed. **5** <sup>1</sup> ~sth (+ **adv./prep.**) to cover sth so that it cannot be seen: Your letter got buried under a pile of papers. ◇ He buried his face in his hands and wept.  
**HIDE FEELING** **6** ~sth to ignore or hide a feeling, a mistake, etc: She had learnt to bury her feelings.  
**PUT DEEPLY INTO STH** **7** ~sth (in sth) to put sth deeply into sth else: He walked slowly, his hands buried in his pockets. ◇ She always has her head buried in a book.  
**IDM** **'bury the hatchet** | **'bury your differences** to stop not being friendly and become friends again **'bury the lede/lead** (US) to give the most important point of a news story near the end instead of at the beginning ⇨ more at **HEAD n**.  
**PHRV** **'bury yourself in sth** **1** to give all your attention to sth: Since she left, he's buried himself in his work. **2** to go to or be in a place where you will not meet many people: She buried herself in the country to write a book.

例外：2番目の内容語の項目に収録される場合がある

- 先頭語に複数のオプションがある場合

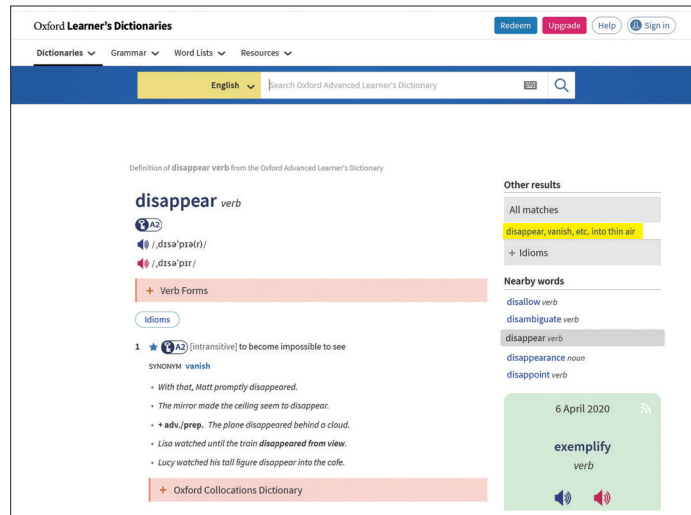
〈例〉bury/hide your head in the sand → **head** に収録  
disappear, vanish, etc. into thin air → **thin** に収録

- 最初の内容語が極めて多くのイディオムを構成する語である場合

〈例〉go it alone → **alone** に収録

アプリ・Webでは、bury the hatchet は **hatchet** にも、bury/hide your head in the sand は **hide**、**head**、**sand** にも収録されている。disappear, vanish, etc. into thin air は **disappear**、**vanish**、**thin**、**air** に収録されている。disappear を検索語として入力すると、disappear, vanish, etc. into thin air が候補として示される。

**hatchet** /'hætʃɪt/ *noun* a small **AXE** (= a tool with a heavy metal **BLADE** for **cutting things up**) with a short handle  
→ picture at **AXE** **IDM** see **BURY**



## 同義語・反意語

同義語は **SYN**、反意語は **OPP** で示される。

## 他所参照

➡ で示され、辞書内に散りばめられた有用な関連情報へと導いてくれる。

**solemn** /'sɒləm; NAmE 'sɑ:l-/ *adj.* **1** (of a person) not happy or smiling **SYN** **serious**: Her face grew **solemn**. ◇ a **solemn** expression **OPP** **cheerful** **2** done, said, etc. in a very serious and sincere way: a **solemn** oath/undertaking/vow, etc. **3** (of a religious ceremony or formal occasion) performed in a serious way: a **solemn** ritual ➡ **solemnly** *adv.*: He **nodded solemnly**. ◇ She **solemnly** promised not to say a word to anyone about it. ◇ The choir walked **solemnly** past.

## 各種コラム

OALD10 には、以下のようなコラム類が数多く掲載され、関連語に関し解説し、追加情報を与えている。

- British/American (英語と米語の違い)
- Collocations (テーマ・使用場面別コロケーション、アプリ・Web のみ)
- Culture (文化情報、アプリ・Web のみ)
- Express yourself (使える口語表現) (①)
- Grammar Point (文法の要点)
- Homophones (同音異綴語) (②)
- Language Bank (類似表現) (③)

### ② reign

**HOMOPHONES**  
**rain • reign • rein** /reɪn/  
• **rain** *noun*: Look at that **rain**! We'll be drenched if it doesn't stop.  
• **rain** *verb*: Take an umbrella—it's going to **rain**.  
• **reign** *noun*: The country changed dramatically during her long **reign**.  
• **reign** *verb*: Henry Bolingbroke was soon to **reign** in England as Henry IV.  
• **rein** *noun*: She's been given free **rein** to spend the money however she wants.  
• **rein** *verb*: They should learn to **rein** in their opinions, otherwise they'll offend somebody.

### ① disagree

**EXPRESS YOURSELF**  
**Disagreeing**  
In a discussion, you may think that what other people say is wrong, but there are polite ways to convey this. It is common to express support for something that the other person says before expressing disagreement.  
• I'm sorry, I don't agree/I have to disagree with you there.  
• Well, actually, I'm not sure that that's true.  
• I don't think that is exactly right.  
• I wouldn't agree that that's the best solution.  
• I have to say that I don't find that argument very convincing.  
• I can't go along with that idea.  
• I take/see your point, but I don't think it would work in practice.  
• Actually, I think that would make the situation worse.  
• Actually, I'm not sure that's the best plan.  
• I understand where you're coming from, but I think we might want to take a different approach here.  
• I can see why you might feel that way, but I think we need to handle this differently.

### ③ addition

**LANGUAGE BANK**  
**addition**  
Adding another item  
• Bilingual children do better in IQ tests than children who speak only one language. **In addition/What is more**, they seem to find it easier to learn third or even fourth languages.  
• Learning another language **not only** improves children's job prospects in later life, **but also** boosts their self-esteem.  
• Teaching children a second language improves their job prospects in later life. **Other** benefits **include** increased self-esteem and greater tolerance of other cultures.  
• **Another/One further/One additional** reason for encouraging bilingual education is that it boosts children's self-esteem.

- ・ More About ... (関連情報)
- ・ More like this (混成語、擬声語・擬態語、直喩を用いたイデオムなど、似ている、または似た振る舞いをする 35 グループの語句を示す、アプリ・Web のみ)
- ・ Synonyms (同義語の使い分け)
- ・ Vocabulary Building (豊かな表現のための語彙増強)
- ・ Which Word? (紛らわしい語の使い分け) (4)
- ・ Word Family (ワードファミリー[基本となる語と派生語]) (5)
- ・ Wordfinder (関連語のリスト) (6)
- ・ Word Origin (語源が **ORIGIN** の表示の下に示される。単語のみならず、フレーズの語源も示されている) (7)

#### 4 double

##### ▼ WHICH WORD?

##### double / dual

These adjectives are frequently used with the following nouns:

<b>double</b> ~	<b>dual</b> ~
bed	purpose
doors	function
figures	role
standards	approach
thickness	citizenship

- **Dual** describes something that has two parts, uses or aspects.
- **Double** can be used with a similar meaning, but when it is used to describe something that has two parts, the two parts are usually the same or very similar.
- **Double**, but not **dual**, can describe something that is made for two people or things, or is twice as big as usual.

#### 5 suspect

##### WORD FAMILY

**suspect** *verb*  
**suspected** *adj.*  
**suspicion** *noun*  
**suspicious** *adj.*  
**suspiciously** *adv.*  
**suspect** *noun, adj.*

#### 6 trend

**WORDFINDER** boom, decline, dip, fluctuate, level off/out, peak, plateau, plummet, slump

#### 7 Rambo

**Rambo** /'ræmbəʊ/ *noun (informal)* a very strong and aggressive man **ORIGIN** From the name of the main character in David Morrell's novel *First Blood*, which was made popular in three films/movies in the 1980s.

### 3 略語・ラベル

#### 略語

	訳 (非省略形)
<i>abbr.</i>	略語 (abbreviation)
<i>adj.</i>	形容詞 (adjective)
<i>adv.</i>	副詞 (adverb)
C	可算名詞 (countable noun)
<i>conj.</i>	接続詞 (conjunction)
<i>det.</i>	限定詞 (determiner)
I	自動詞 (intransitive verb)
<i>n.</i>	名詞 (noun)
pl.	複数形 (plural)
<i>past part.</i>	過去分詞 (past participle)
<i>prep.</i>	前置詞 (preposition)
<i>pron.</i>	代名詞 (pronoun)
sb	誰か (人を表す名詞 (句)) (somebody)
sing.	単数形 (singular)
sth	何か (物・事を表す名詞 (句)) (something)
<i>ymb.</i>	記号・符号など (symbol)
T	他動詞 (transitive verb)
U	不可算名詞 (uncountable noun)
<i>v.</i>	動詞 (verb)

	訳
<i>AustralE</i>	オーストラリア英語
<i>BrE</i>	イギリス英語
<i>CanE</i>	カナダ英語
<i>E AfrE</i>	東アフリカ英語
<i>IndE</i>	インド英語
<i>IrishE</i>	アイルランド英語
<i>NAmE</i>	北アメリカ英語
<i>NEngE</i>	北イングランド英語
<i>NZE</i>	ニュージーランド英語
<i>SAfrE</i>	南アフリカ英語
<i>ScotE</i>	スコットランド英語
<i>SEAsianE</i>	東南アジア英語
<i>US</i>	アメリカ英語
<i>WAfrE</i>	西アフリカ英語
<i>WelshE</i>	ウェールズ英語

#### ラベル

	訳 (解説)	例
approving	賞賛して	feisty, petite
disapproving	軽蔑して	blinkered, newfangled
figurative	比喩的な	He didn't want to cast a shadow on (= spoil) their happiness.
formal	堅い (改まった、または公式な場面で使われる)	admonish, besmirch
humorous	ユーモラスな	fisticuffs, ignoramus
informal	くだけた (親しい間柄、打ち解けた場面で使われる)	bonkers, dodgy
ironic	皮肉な	You're a great help, I must say! (= no help at all)
literary	文語的な	aflame, halcyon
offensive	差別的な (使うべきではない)	half-caste, slut
slang	スラング	dosh, gnarly
specialist	専門的な	accretion, adipose
taboo	侮蔑語、卑猥語 (使うべきではない)	bloody, shit
dialect	方言 (アイルランド、スコットランド、ウェールズを除く英国方言)	beck, nowt
old-fashioned	古めかしい	beanfeast, bothersome
old use	古語	ere, perchance
saying	ことわざ、常套句	Actions speak louder than words.
TM	商標	Band-Aid, Frisbee



## 第2部 OALD10 の活用法

### 1 OALD10 を使い読むー「辞書検索の7ステップ」に沿って

OALD10 のように見出し語がアルファベット順に並んでいる辞書は、基本的には読むための辞書だ。普段何気なく行っているが、実は辞書検索は高度で複雑な知的プロセスである。辞書学の大家ラインハート・ハートマン教授は、辞書検索の過程を下の7つのステップに分けている。

- ① 問題の認識
- ② 問題となる語の特定
- ③ 辞書の選択
- ④ 見出し語の選択
- ⑤ 語義の選択
- ⑥ 有用な情報の抽出
- ⑦ 情報の活用

(Hartmann 2001: 89-92)

辞書の検索がうまくいった場合は、この7ステップを無意識のうちにクリアしているはずだ。検索は1回ですめばよいが、なかなかスムーズにいかない場合もある。英英辞典の場合はなおさらであろう。よりよい検索のため、また途中で検索方法の微修正を余儀なくされるような場合のためにも、辞書検索の7ステップを頭に入れておくことは有益だ。ここでは、辞書検索の7ステップを練習を交え確認しつつ、OALD10 を使い読むということを体感してみよう。ハートマンの検索モデルは紙の辞書の検索に基づいているのだが、電子媒体の辞書の検索に関しても最小限触れることにする。

#### ① 問題の認識

辞書を引く場合は、何らかの動機、理由があるはずである。読解の場合は、わからない語句・語義の意味の検索や、確信の持てない知識の確認がこれに当たる。「わからない」を「わかり」、検索行動を起こすセンスが必要だ。検索の必要が正しく認識されないと辞書は引かれず、あやふやな、または誤った解釈のまま読み進めることになり、後でしわ寄せがきてしまう可能性がある。この検索の入り口に当たる「問題の認識」は極めて重要なステップだ。

#### ② 問題となる語の特定

認識された問題を、辞書を使って解決するためには、問題がどの語句に起因しているか特定しなければならない。問題が未知語にある場合は認識しやすいが、基本語の周辺の語義や成句に、意外な落とし穴が潜んでいることがあるので要注意だ。解釈がしっくりこない場合は、これらを疑ってみる価値がある。

それでは、検索の最初のステップ、「①問題の認識」、「②問題となる語の特定」にかかわる練習問題をやってみよう。

**問題** 次の文中で確認したい、気になる語句があれば下線を引こう。

All of this unpleasantness has increased the stress on flight attendants, too. The many people who came out in support of Steven Slater, for the most part probably people who always made an effort to be polite and cooperative on uncomfortable airline flights, seemed to realize this.

**【解説】** 辞書検索は、各人の語彙数や検索のスタイルなどにより左右される個人的な活動なので、絶対的な正解はないと言える。以下の例はあくまでも参考例として考えていただきたい。

come out という句動詞は、正しく解釈できているだろうか。「出てくる」という解釈ではしっくりこない。語義7の「賛成・反対の意を表す」という意味だ。

**【訳例】** こんなに多くの不快なことが、客室乗務員へのストレスをも増加させてしまっている。スティーブン・スレーターへの支持を表明した多くの、たぶん大部分は乗り心地の良くない飛行便で礼儀正しくし協力的であろうと常に努力した人たちは、これに気付いていたようである。

**come out** **1** when the sun, moon or stars **come out**, they appear: *The rain stopped and the sun came out.* **2** (of flowers) to open: *The daffodils came out early this year.* **3** to be produced or published: *When is her new novel coming out?* **4** (of news, the truth, etc.) to become known: *The full story came out at the trial.* ◇ **it comes out that ...** *It came out that he'd been telling lies.* **5** to be shown clearly: *Her best qualities came out in a crisis.* **6** when words **come out**, they are spoken: *I tried to say 'I love you,' but the words wouldn't come out.* **7 to say publicly whether you agree or disagree with sth:** *He came out against the plan.* ◇ *In her speech, the senator came out in favour of a change in the law.* **8 (BrE)** to stop work and go on strike **9** to no longer hide the fact that you are GAY **10** if a photograph taken on film **comes out**, it is a clear picture when it is developed and printed: *In the 1950s photographs often didn't come out at all.* **11** (of a young UPPER-CLASS girl in the past) to be formally introduced into society **come out (of sth)** **1** (of an object) to be removed from a place where it is fixed: *This nail won't come out.* **2** (of dirt, a mark, etc.) to be removed from sth by washing or cleaning: *These ink stains won't come out of my dress.* ◇ *Will the colour come out (= become faint or disappear) if I wash it?*

### ③ 辞書の選択

ここでは辞書の選択は不問であろう。本ガイドの対象も、皆さんのご関心も OALD10 にあるからだ。しかし実際の検索の場面では、OALD10 だけではこと足りない場合もあるだろう。学習英英辞典は見出し語数、語義数において十分でない場合がある。しかし、百科的な情報を含め、情報量は以前よりは増加している。OALD10 の「実力」を把握するため、一定の期間は、とりあえず最初に OALD10 を引いてみることをお勧めする（定義、用例にわからない語句が出てきた場合も、まずは OALD10 でチェックするようになるとおよい）。

### ④ 見出し語の選択

問題となる語句が特定できたら、次は、問題を解決するための情報がどの見出し語の下に収録されているか判断しなければならない。複数の品詞にまたがる語は、どの品詞かを特定しなければならない。複合語は独立見出しとして立てられている場合（例：**personal best**）とそうでない場合（例：**personal life** **personal** の語義3の用例中に太字で表示）がある。また、複数形が独立見出しになっているような場合（例：**premises** 「敷地」）があることも覚えておかなければならない。

辞書検索の負担は、電子メディアのおかげで軽減された。電子辞書では、見出し語の綴りを最後まで入力しなくても候補を示してくれるようになった。複合語、成句がある場合は、それらも示してくれる（最初に成句の存在に気付かなくても、気付かせてくれる\*）。kick the bucket が **kick** にあるのか **bucket** にあるのか、もう悩み不要！ 検索勝手がよくなり、検索を誤った際の再検索、前後の見出し語、関連語の閲覧および検索も容易になった。

\*例えば、We had to rough it. 中の rough の意味を検索するとしよう。rough を入力した時点で候補として10の語句が示され、その中に rough it を見つけ、これが成句であることを教えられる。

**問題** 下線部の意味を検索する場合、どの品詞を見ればよいか考えよう。

Then, once their [= the patients'] immune systems are back to normal, they can simply take a common sense approach to keeping themselves and their environments clean.

**【解答】** once 接続詞、normal 名詞

**【解説】** **once** には副詞と接続詞がある。この場合は、後ろに節がきているので接続詞で、意味は「…するとすぐに、…する時」だ。

**normal** は形容詞と名詞が収録されているが、前置詞 **to** の後にきているので、名詞だ。back to normal が太字で示されている。

**【訳例】** いったん免疫機構が正常に戻ってしまえば、その後は自分自身や周囲を清潔に保つための単に常識的な方法を使えばよいのである。

**normal** **1** **A2** **o** /ˈnɔːml; NAmE ˈnɔːrml/ *adj., noun*  
**■ adj. 1** **A2** typical, usual or ordinary; what you would expect: *quite/perfectly (= completely) normal* ◇ Her temperature is normal. ◇ They are just quiet, normal people. ◇ **it is~(for sb) to do sth** It's normal to feel tired after such a long trip. ◇ He should be able to lead a perfectly normal life. ◇ Divorce is complicated enough in normal circumstances, but this situation is even worse. ◇ Under normal circumstances, I would say 'yes'. ◇ In the normal course of events I wouldn't go to that part of town. ◇ The unemployment rate was above normal levels. ◇ We are open during normal office hours. **2** **B1** not suffering from any mental or physical disorder: People who commit such crimes aren't normal. ◇ Rebecca was born a normal, healthy baby.  
**OPP abnormal** **IDM** see PER  
**■ noun 1** **B1** [U] the usual or average state, level or standard: *above/below~* The rainfall has been above normal for the time of year. ◇ *(back) to~* Things soon returned to normal. ◇ *as~* Life continued as normal. **2** [C] (informal) a person who is ordinary or healthy **IDM** see NEW

## ⑤ 語義の選択

適切な見出し語が選定されたら、項目内のどこに適切な情報が収録されているか判断しなければならない。せっかくここまでたどり着いても、すべての情報が英語で書かれている英英辞典においては、多義語の語義検索は外国人学習者にとって骨の折れる作業だ。しかし、学習英英辞典においては、文法、コロケーションの明示、ショートカットの表示など、使用者の負担を軽減する多くの措置が施されている。ここでは練習問題を通じ、いくつかの語義選択のストラテジーを見てみよう。

**問題** 下線部の意味を調べる場合、何番の語義を見ればよいか考えよう。

- 1 By the time the war finally ended 15 years later, this beautiful city had been reduced to ruins.
- 2 Such attempts have met with limited success, however.
- 3 And, in an even more difficult process, they have increased bananas' resistance to disease. Further, they have created bananas that remain good to eat long after they have been picked.
- 4 You may think that DST [= daylight saving time] meets these goals, but in fact it doesn't meet them very well at all.

**【ヒント】** 以下の事項に注目しよう。

- 1 名詞の可算 [C]、不可算 [U]
- 2 句動詞のパターン (meet with + 物・事)
- 3 似た用例
- 4 ショートカット

意味がわからずに辞書を引いている場合は、理論的には、まずは意味以外の手がかりを基に語義検索を行うのが常道である。しかし実際には、検索の状況に応じ OALD10 が与えてくれるさまざまな「ヒント」を臨機応変に活用し、迅速かつ正確に語義の選定を行うべきだろう。



## 1 【解答】 語義 2

【解説】 名詞の検索においては、可算・不可算、また可算であれば、単数形で用いられるか、複数形で用いられるかといった情報が大きな手がかりになることがある。この場合は検索語が ruins と複数形で用いられているため、[U] と表示されている語義 1、3 は無視する。語義 4 の [sing.] は「単数形で使われる」という意味なので該当しない。語義 2 は可算で、しかも複数形で使われる ([C] (also ruins [pl.])) と書かれており、定義を見ると意味的にも合うのでこれが正しいと判断する。

【訳例】 15年後に内戦がようやく終わったころには、この美しい都市は廃墟と化してしまっていた。

**ruin** 1 2 /'ru:ɪn/ verb, noun

■ **verb** 1 2 ~sth to damage sth so badly that it loses all its value, pleasure, etc. **SYN** spoil, wreck: The bad weather ruined our trip. ◇ That one mistake ruined his chances of getting the job. ◇ My new shoes got ruined in the mud.

2 2 ~sb/sth to make sb/sth lose all their money, their position, etc: If she loses the court case it will ruin her. ◇ The country was ruined by the war.

■ **noun** 1 2 [U] the state or process of being destroyed or severely damaged: A large number of churches fell into ruin after the revolution. 2 2 [C] (also ruins [pl.]) the parts of a building that remain after it has been destroyed or severely damaged: The old mill is now little more than a ruin. ◇ We visited the ruins of a Norman castle. ◇ (figurative) He was determined to build a new life out of the ruins of his career. ➔ **VISUAL VOCAB** page V32 3 2 [U] the fact of having no money, of having lost your job, position, etc: The divorce ultimately led to his ruin. ◇ The bank stepped in to save the company from financial ruin. 4 [sing.] something that causes a person, company, etc. to lose all their money, job, position, etc. **SYN** downfall: Gambling was his ruin.

**IDM** in 'ruins destroyed or severely damaged: Years of fighting have left the area in ruins. ◇ The scandal left his reputation in ruins. ➔ more at RACK n.

## 2 【解答】 meet with sth、語義 1

【解説】 meet with の句動詞は、meet with sb、meet with sth、meet sth with sth の3つが収録されている。sb (= somebody) は「人」を、sth (= something) は「物・事」を表しているわけだが、この単純な区分が重要で、検索、ひいては発信においてものを言う。今回は met with の後に続く語 limited success が「事」であるので meet with sb ではない。細かいが、受け身のパターン (be met with something) でも使われていないので、meet sth with sth も却下され、meet with sth が適切な選択肢となる。用例に to meet with success/failure とあり、意味的にも合うので、語義 1 が適切と判断する。

【訳例】 しかし、このような試みは限られた成功しか収めていない。

## 3 【解答】 副詞、語義 4

【解説】 further には形容詞と副詞と動詞があるが、用法から判断すると副詞だ。文頭に置かれ、コンマで区切られるという特徴に注目し、同じような用例はないか項目全体に目を通す。すると、語義 4 にズバリ同じ用法の例文が見つかる。フォーマルな用法で、「さらに」というような追加の意味で使われる。

【訳例】 そして、また一層難しい過程において、病気に対するバナナの抵抗力を強化してきたのである。さらに、収穫されたあと長く賞味できる状態がもつバナナも作り出してきた。

**further** 1 A2 w /'fɜ:ðə(r); NAmE 'fɜ:rð-/ adj., adv., verb

■ **adj.** 1 A2 more; additional: Cook for a further 2 minutes. ◇ For further details call this number. ◇ Can you give me any further information? ◇ further investigation/research/study/analysis ◇ We have decided to take no further action. ◇ The museum is closed until further notice (= until we say that it is open again). ➔ **LANGUAGE BANK** at ADDITION

■ **adv.** 1 1 B1 (comparative of far) (especially BrE) at or to a greater distance **SYN** farther: We had walked a bit further than I had realized. ◇ I'm too tired to go any further. ◇ further north/south/east/west ◇ Two miles further on we came to a small town. ◇ The hospital is further down the road. ◇ Can you stand a bit further away? 2 1 B2 a longer way in the past or the future: Think further back into your childhood. ◇ How will the company be doing ten years further on? 3 1 B2 to a greater degree or extent: to develop/increase/enhance/improve sth further ◇ Costs must be further reduced. ◇ The police decided to investigate further. ◇ She was getting further and further into debt. ◇ Nothing could be further from the truth. 4 (formal) in addition to what has just been said **SYN** furthermore: Further, it is important to consider the cost of repairs. ➔ note at FARTHER

## 4 【解答】 動詞、語義 6

【解説】 meet には 10 の語義が収録され、語義に先立ち、以下の 8 つのショートカットが示されている：

語義 1 BY CHANCE 「偶然に」

語義 2-4 BY ARRANGEMENT 「申し合わせによって」

(密接に関連する語義は 1 つのショートカットの下にまとめられている)

語義 5 FOR THE FIRST TIME 「初めて」

語義 6 SATISFY 「満足させる」

語義 7 IN CONTEST 「対戦で」

語義 8 EXPERIENCE STH 「何かを経験する」



語義 9 TOUCH/JOIN「触れる」

語義 10 PAY「支払う」

ショートカットは各語義の意味を端的に教えてくれる、言わば意味への「近道」だ。英英辞典において多義項目の語義検索が使用者を悩ませてきたが、ショートカットに目を通し検索することで、使用者にかかる負担がかなり軽減された。本文での目的語が goals（「目標」）であることを考えると、語義 6 のショートカット SATISFY が気になる。文法的（他動詞用法）にも、意味的（「（必要、要求など）を満たす」）にも合うので、この語義が適切であると判断する。

【訳例】DST はこれらの目的を達成していると思うかもしれないが、実は、それは少しも目的を達成していないのである。

## ⑥ 有用な情報の抽出

適切な語義、成句などの収録箇所を突き止められたら、次はそこから問題解決に有用な情報を抽出しなければならない。それには、定義、用例など英語で与えられている情報の正確な解釈が前提となる。コンテキストから切り取られた用例の解釈にも気をつけなければならないが、用例はふつうの英語で書かれている。それに対し、定義語彙、定義文などでわかりやすさへの配慮がなされているものの、定義は複雑な構造を取っていたり、解釈にコツが必要な場合があるので要注意だ。ここでは、定義の解釈に必要な基本事項を見てみよう。

### ▶名詞の定義の基本構造

table の定義を見てみよう。

a piece of furniture that consists of a flat top supported by legs

テーブルの基本的な特徴が端的に示されている。この例のように、名詞は「属＋特徴」のパターンで定義されている場合が多い。

属	特徴
a piece of furniture	that consists of a flat top supported by legs
1 点の家具	平らな上面とそれを支える脚からなる

「属」は定義されている語が分類されるカテゴリーで、上位語（より一般的な語）で表される。「特徴」は関係詞のほか、分詞、形容詞などで表される。この「属＋特徴」の定義のパターンは、何かを説明する際など、発信に広く応用できる。また、英語は繰り返しを嫌う言語だが、「属」の部分は繰り返しを避ける目的でライティングにも活用できる。

〈例〉There is an antique table in the dining room. The furniture adds to the atmosphere of the room.

### ▶文定義

辞書の編集は限られたスペースとの戦いでもあるので、かつて定義は通例見出し語と入れ替え可能な「句」の形でなされていた。この制約の中で汎用的な意味の記述をしなければならず、さまざまな情報を盛り込もうとした結果、わかりづらい定義が発生した。この反省から、スペースをある程度犠牲にしてもわかりやすさが優先され、「読んですぐにわかる」文定義が登場し、広く使われるようになった。しかし、この「読んですぐにわかる」というのがくせもので、文定義の原則を押さえずに、ただ日本語に訳して解釈しようとしても結局何を言っているのかわからないという事態に陥りかねない。例えば、「含む」という意味の **contain**（語義 1）は、以下のように定義されている。

if sth **contains** sth else, it has that thing inside it or as part of it

「もし何かほかの物を含んでいるのであれば、それはほかの物の中に、あるいは一部として持つ」と訳される

が、当たり前すぎて意義がわからないという声が聞こえてきそう。文定義は上の例のように if で始まるものが多いが、if 節が定義されている語の使用パターンを示し、主節が意味を説明していると考えればよい。つまり if 節は「contain が SVO の文型で使われ、主語、目的語共に無生物がくる」ということを表しているのだ。

また、**coordinate**（語義 3、「コーディネートする」）の定義を見ると、2つの if 節を含み、まどろっこしい。しかし、これらは選択制限と共に他動詞用法（人が主語で服・家具が目的語）と自動詞用法（服・家具が主語）を示している。

if you **coordinate** clothes, furniture, etc. or if they **coordinate**, they look nice together  
 定義文を正しく理解するためには、この基本事項を押さえておくことが肝心だ。また、定義文では見出し語の複雑な使用パターンは網羅しきれないこと（動詞パターン（→p. 8 表 参照）、用例を確認すること！）、自由度が増したことが災いし、入り組んだ構造を取る定義があることも認識しておく必要がある。

### ▶定義によく使われる語句

定義にはその性格上、よく使われる語句がある。それらを把握しておく、定義の解釈への負担が減り、迅速かつ正確な理解の助けになる。OALD10 の購入者専用サイト、Resources 内 Lesson Plans の“A tour of the dictionary”では以下の7語が頻出語として挙げられている。

process「過程」      substance「物質」      instrument「道具」      act「行為」  
 organization「組織」      state「状態」      quality「属性」

ここでは、もう一つよくお目にかかる語の particular を見てみたい。in a particular way の形で特によく使われるが、「ある特定の方法で」というような大げさな意味はない。**treat**（語義 1）の定義を見てみよう。

to behave in a particular way towards sb/sth  
 「（…のように）扱う」という意味だが、可変部「…のように」が in a particular way で表されているにすぎない。1つ目の用例 *My parents still treat me like a child.*（両親はいまだに私を子供扱いする）においては、*like a child* の部分がこれに当たる。

また、especially、often、sometimes、usually などの後に、重要な情報が提示されることが多いので注目しよう。

**treat** ⓘ ⓘ ⓘ /tri:t/ verb, noun  
 ■ verb  
 • BEHAVE TOWARDS SB/STH ⓘ ⓘ ⓘ to behave in a particular way towards sb/sth: ~sb/sth (with sth) to treat people with respect ◇ ~sb/sth like sth My parents still treat me like a child. ◇ ~sb/sth as sth He was treated as a hero on his release from prison.

**go 'on (about sb/sth)** (informal) to talk about sb/sth for a long time, especially in a boring or complaining way: He went on and on about how poor he was. ◇ She does go on sometimes! **go 'on (at sb)** (especially BrE, informal) to

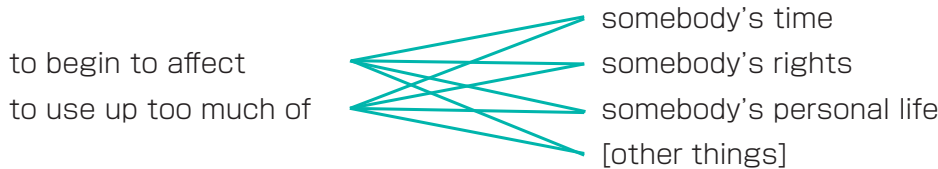
### ▶定義の構造／パターン

定義には複数の要素が盛り込まれ、並列または階層構造をなしている場合がある。解釈に活用するためには、定義を正しく理解し、「意味パターン」に分析し、用例との対応関係を見極める必要がある。

**問題** encroach の語義 1 の定義、用例を日本語に訳してみよう。

**en-croach** /ɪnˈkrəʊtʃ/ verb (formal) ⓘ ⓘ ⓘ ~ (on/upon sth) (disapproving) to begin to affect or use up too much of sb's time, rights, personal life, etc: I won't encroach on your time any longer. ◇ He never allows work to encroach upon his family life. ⓘ ⓘ ⓘ ~ (on/upon sth) to slowly begin to cover more and more of an area: The growing town soon encroached on the surrounding countryside. ◇ the encroaching tide (= that is coming in) ▶ **en-croach-ment** noun [U, C]: ~ (on/upon sth) the regime's many encroachments on human rights

【解説】 定義は以下の8つの意味パターンに展開できる。



用例はそれぞれ以下の意味パターンを例示していると考えられる。

用例1：to use up too much of somebody's time

用例2：to begin to affect somebody's personal life

【解答】 定義：誰かの時間、権利、プライベートなどに影響を与え始める、またはそれらを過度に奪う。

用例1：これ以上お時間を取らせるつもりはありません。

用例2：彼は仕事が家庭生活に影響しないようにしている。

## ⑦ 情報の活用

最後は、辞書から得られた情報を、問題の生じた読解の文脈に当てはめ、わからなかった語句を解釈するなどの問題を解決するステップだ。前のステップ「⑥有用な情報の抽出」と行きつ戻りつ、この最終ステップをクリアすることもあるだろう。これまでの努力が水の泡とならないよう、抜かりなく遂行しなければならない。

それでは、このセクションのまとめとして、複数の検索ステップにまたがる練習問題をやってみよう。

**問題** OALD10 を参照し、以下の英文を解釈しよう。

- Research has shown that there is no significant difference in how female and male judges decide cases, except in this one area of the law: sex discrimination.
- It should also be remembered that *Oklahoma!* appeared right in the middle of World War II. This was, in fact, a particularly dark time for the United States.

1【解説】 **difference** を引くと、太字のパターン、用例から、There is a/no (形容詞) difference (between/in ...) のパターンで使われることがわかる。受信目的で OALD10 を検索したとしても、このような発信に有用な情報も貪欲に吸収しよう。

また、お馴染みの「decide + on + 名詞」のパターンにそぐわない、decide cases という言い方が引っかかったら、即チェックしてみよう。すると、語義2の記述から、decide が直接目的語を取る語法が法律分野にあることがわかる。ほかのコロケーションも併せて覚えてしまおう。

【訳例】 研究によって、性差別というこの法律の1分野を除けば、女性判事と男性判事の訴訟に対する裁定の仕方に大きな違いはないことが示されている。

2【解説】 **remember** は、まさに同じパターンが示されている、語義3で使われていることがわかる。最も一般的な語義1ではない。確認してよかったと思える事例だ。

dark が「暗い」という意味で、dark time が「暗い時代」

## decide

school should purchase new software. 2 [T, I] (law) to make an official or legal judgement: ~sth The case will be decided by a jury. ◇ ~for/in favour of sb | ~in sb's favour The Appeal Court decided in their favour. ◇ ~against sb It is always possible that the judge may decide against you. ◇ ~on sth He challenged her right as governor to decide on the matter. 3 [T] to affect the result of sth: ~sth A mixture of skill and good luck decided the outcome of the game. ◇ ~if, whether, etc... A number of factors decide whether a

## re-mem-ber ① A1 /rɪ'membə(r)/ verb (not usually used in the progressive tenses)

• **SB/STH FROM THE PAST 1 ① A1** [T, I] to have or keep an image in your memory of an event, a person, a place, etc. from the past: ~sb/sth This is Carla. Do you remember her? ◇ I don't remember my first day at school. ◇ I'll always remember this holiday. ◇ ~sb/sth as sth He still remembered her as the lively teenager he'd known years before. ◇ ~sb/sth from sth I remember her from university. ◇ ~sb/sth with sth He will be remembered with affection by all who knew him. ◇ As far as I can remember, this is the third time we've met. ◇ ~doing sth I remember seeing pictures of him when I was a child. ◇ ~sb/sth doing sth I can still vividly remember my grandfather teaching me to play cards. ◇ ~(that) ... I remember (that) we used to go and see them most weekends. ◇ note at WANT

• **FACT/INFORMATION 2 ① A1** [T, I] to bring back to your mind a fact, piece of information, etc. that you knew: If I remember correctly, you were supposed to collect the keys on your way here. ◇ ~sth I'm sorry—I can't remember your name. ◇ ~how, what, etc. Can you remember how much money we spent? ◇ ~(that) ... Remember that we're going out tonight. 3 ① A1 [T] to keep an important fact in your mind: ~(that) ... Remember (that) you may feel sleepy after taking the pills. ◇ It is important to remember that exercise and a balanced diet are the foundation of any successful fitness plan. ◇ it is remembered that ... It should be remembered that the majority of accidents happen in the home.



と訳されるであろうことは百も承知だ。しかし、念のため dark を調べてみると、語義 8 のショートカット WITHOUT HOPE が目に飛び込み、この語義が該当することがわかる。この dark は「希望が持てない」の意味での「暗い」であることがわかり、発信でもぶれずに使えるだろう。

【訳例】『オクラホマ!』が第2次世界大戦の真ただ中に登場したことも覚えておかななくてはならない。実際、これは合衆国にとって特に暗い時代であった。

**dark** ⓘ **A1** /dɑ:k; NAmE dɑ:rk/ *adj., noun*  
 ■ **adj. (dark-er, dark-est)**  
 • **WITHOUT HOPE** 8 unpleasant and without any hope that sth good will happen: the darkest days of Fascism ◇ The film is a dark vision of the future.

## 2 OALD10 を使い書く

文法、パターン、コロケーション、類義語など、学習英英辞典には発信のための情報もふんだんに盛り込まれている。源泉の一つを、発信のための辞書、*A Grammar of English Words* (Palmer, H. E., 1938, Longmans, Green) にたどることのできる学習英英辞典には、発信機能が DNA に組み込まれているのだ。これらを有効活用しない手はない。ここではセンテンスレベルとそれを超えるレベルに分け、OALD10 がライティングにどのように活用できるかを考えてみる。

### ▶センテンスレベルのライティング——コロケーションを基に

センテンスレベルの作文では、文法はもとより語彙の選択が重要だ。こなれた表現か否かということも、適切な語彙選択に必要な要素だ。その際に重要となるのがコロケーションという概念だ。コロケーションとは、端的に言うと、「語と語の相性」ということで、英語にも日本語にも存在する。例えば、日本語では「士気を高める」と言うが、英語ではどうか。「士気」に相当する語が morale だとすると、「高める」に当たる適切な動詞は何か。それを調べるために、辞書はどのように活用できるだろうか。

( ) morale

コロケーションの検索には2つのアプローチがある。「縦の関係」で考えるか、「横の関係」で考えるかだ。「縦の関係」とは、空欄に代入可能な類義語から選ぶということで、日本語（和英辞典で「高める」を引く）からも英語（類義語辞典で **increase** などを引く）からも検索可能だ。OALD10 では、類義語情報は各語義 (**SYN**)、同義語欄 (Synonyms) などに提示されている。

**mor-ale** /mə'ra:l; NAmE -'ra:əl/ *noun* [U] the amount of confidence and enthusiasm, etc. that a person or a group has at a particular time: to **boost/raise/improve morale** ◇ Morale amongst the players is very high at the moment. ◇ Staff are suffering from low morale.

「横の関係」とは、文法、コロケーションを基に、morale と一緒に使える動詞を選ぶということだ。コロケーション辞典で **morale** を引き、目的語に morale を取る動詞を調べる、学習英英辞典、英和辞典で **morale** を引き、用例に目を通し適切な動詞をピックアップするという方法が考えられる。OALD10 で **morale** を引いてみると、用例中に太字で示されている boost、raise、improve が「高める」の意の適切な動詞であることを教えてくれる。

OALD10 には従来の詳しい文法情報に加え、発信、語彙増強に有益な関連語情報も豊富に提示されている。前版からは Wordfinder が加えられた。例えば、**apply** の語義 1 (「応募する」) の Wordfinder には、知識、表現の幅を広げてくれる関連語がリストアップされている。

アプリ・Web では、関連語をタップ／クリックすると、その項目にジャンプすることができる。

また、Web の上部左から 3 番目のタブ Word Lists

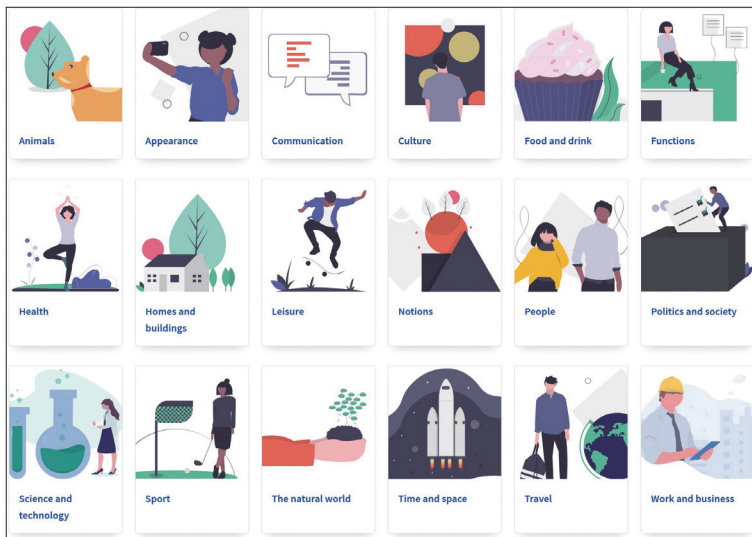
**apply** ⓘ **A2** ⓘ /ə'plai/ *verb* (**ap-plies, ap-ply-ing, ap-plied, ap-plied**)  
 • **FOR JOB/COURSE** 1 ⓘ **A2** [I, T] to make a formal request, usually in writing, for sth such as a job, a loan, permission for sth, a place at a university, etc: You should **apply** in person/by letter. ◇ ~ **for sth** I have decided to **apply** for this new job. ◇ to **apply** for a visa/passport/grant/licence ◇ The developers **applied** for planning permission to build over 200 houses. ◇ ~ **to sb/sth (for sth)** to apply to a company/university ◇ ~ **to do sth** He has applied to join the army.  
 ⓘ **WORDFINDER NOTE** at EMPLOY

**WORDFINDER** appoint, candidate, CV, experience, interview, job description, qualification, reference, shortlist



内のTopicsをクリックすると、次のような画面が表示される(❶)。これは、トピック別語彙集(mini-dictionaries)で482のサブトピックが18の分野に分類されている。右下のWork and businessをクリックすると、Business、Jobs、Money、Working lifeの見出しの下、21のサブトピックが含まれている(❷)。Working life内のJob interviewsをクリックするとapplyを含む、就職活動に関連する28の語句が列挙されている(❸)。CEFRのレベル、英米の発音が聞けるアイコンも示され、語句をクリックするとOALD10の項目にジャンプできる。また、Filtersを使い、サブトピック、CEFRのレベルによる絞り込みも可能である。

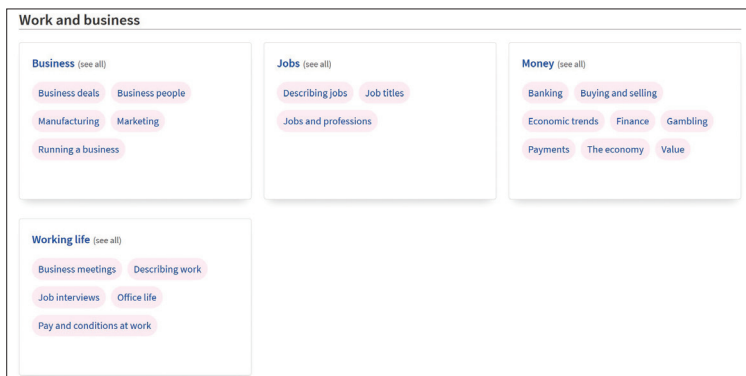
❶



❸



❷



### ▶センテンスを超えるライティング

従来、辞書が発信の助けになるのはセンテンス内、またはセンテンス間の問題に限定されていた。しかしOALD10では、書籍のOxford Writing Tutor (WT1-30)と、購入者専用サイトのOxford iWriterが、エッセーから手紙、メール、履歴書と多岐にわたる以下の項目に関し、ライティングの方法、実例、有用表現、アドバイスを示してくれる。項目、内容に若干の違いがあるので、両方に目を通すようにするとよい。

Oxford Writing Tutor	Oxford iWriter
Using the Oxford Advanced Learner's Dictionary to improve your writing The writing process Answering exam questions Writing a comparison essay	American-style résumé Covering/Cover letter Experienced candidate CV New graduate CV Comparison essays

Writing a discussion essay	Discussion essays
Writing a summary	Academic email
Describing graphs and charts	Formal business letter
Writing a report	Informal email
Writing a book or film review	Email of complaint
Discussing pictures and cartoons	Email of enquiry
Writing an article	Describing graphs
Writing letters and emails	Describing pie charts
Writing a longer essay or dissertation	Long report
Writing CVs and or résumés	Short report
Writing a covering letter	Article
	Book or film review
	Discussing pictures and cartoons
	Presentation

2 つ目の “The writing process” は、Oxford Writing Tutor にのみ示されている。1 Preliminary phase、2 Pre-writing phase、3 Writing phase、4 Presentation phase のライティングの各段階における留意点を示してくれる。例えば、1 においては、「目的」と「読み手」を意識すること、2 においては、書き始める前に構成を考えること、3 の Review/Edit では、語彙の選択、コロケーションをチェックすることなどが指摘されている。Effective writing の項には Academic writing という囲み記事があり、学術文書においては、非人称構文（例：This study aims to ...）、受動態（例：A study was conducted to see ...）が好まれる傾向にあることを指摘している。

“Writing a comparison essay” 以降、それぞれにモデルエッセーが示され（“Writing a longer essay or dissertation” は除く）、全体（構成、語句）の解説、書き方に関するアドバイス、有用表現（Language Bank）が与えられている。

例えば、“Writing a comparison essay” では、オンラインでの授業と対面での授業を比較するモデルエッセーと解説が示されている。「比較文」の作成は試験にもよく出されるが、Preparing to write では、9 ステップからなる書き方のヒントを与えられている。Language Bank には、相違点、類似点を提示するための有用表現が示されている。

“Writing a summary” では、簡潔に言い換えることの重要性が指摘されている。「形容詞＋名詞」、品詞転換による言い換えを勧め、後者には Word Family（→ p. 11 参照）が参考になると説明している。

their own customer CCTV systems for personal ... use → **private systems**

**noun → verb:** One promising new **development** is ... → **the technology is developing**

語数制限内に収めるために語数を減らしたい場合は、形容詞を削除すること（no clear proof → no proof）、句を語に言い換えること（not a lot of → few）を提案している。さらに削除が必要な場合は、内容を削減することをアドバイスしている。

Writing a comparison essay

Cambridge Assessment English: C1 Advanced | IELTS | TOEFL

**WT6 Writing a comparison essay**

You often need to compare and contrast texts and information in exams, academic essays, work and everyday life. Look at the example of a comparison essay below.

**INTRODUCTION**

① The first paragraph gives a short summary of the current situation. The second sentence catches the reader's interest.

**DEVELOPMENT**

② The second paragraph describes the similarities between online and traditional courses.

③ The first difference is introduced and offers supporting evidence that online courses have an advantage over traditional courses. *Despite these similarities* indicates that the writer is going to list the differences.

④ The writer gives the second difference and advantage of online courses.

⑤ *However* indicates that the writer is now going to change focus and discuss the advantages of traditional courses.

⑥ The writer provides data to support the argument that traditional courses are more effective to provide balance to the overall argument.

**CONCLUSION**

⑦ The paragraph starts with a short summary and then provides the conclusion based on the main points introduced in the development stages.

**Which is more effective, online or traditional classroom learning?**

① Technology has brought about significant changes in education and the number of students taking courses online has increased dramatically. Recently 380,000 learners signed up for one online English course, the most ever for a MOOC (massive open online course). At the same time, traditional universities continue to provide face-to-face tutorials, seminars and lectures for relatively small numbers of students. Which of these forms of learning is more effective and how do we know?

② Both online courses and face-to-face courses have the same aims—to provide a structured educational experience for students that allows them to learn a given subject effectively. Online courses **are similar to** traditional courses in that they have a syllabus and **also** provide learning materials such as course notes.

③ *Despite these similarities*, there are a number of significant **differences between** the two types of course. The main advantage of online courses is that students have continuous access to the learning material, and learning can be done anywhere at any time. **On the other hand**, face-to-face learning happens only in the classroom according to a fixed timetable. This is a disadvantage for students who also have to work and for students who live far away from the college or school.

④ **Unlike** traditional courses, which require buildings and teachers, online courses only need a website and digital learning materials. Added to this, online courses can take an almost unlimited number of students, **while** traditional courses are limited to the number of people that can fit into a lecture hall. The end result is that online courses are **much cheaper**, and in some cases, free.

⑤ **However**, the news is not all good for online courses. It seems that students **prefer** face-to-face contact with their lecturers and classmates. Students can get immediate answers to questions in a lecture or tutorial **rather than** wait for an email or chatroom message. Social interaction with their peers not only helps their motivation but also develops their social skills.

⑥ It appears that the personal or affective element of traditional courses is crucial. Some online courses have completion rates as low as 13%, **whereas** between 70–80% of students on traditional courses complete their degrees. Despite their low cost and convenience, online courses cannot yet compete with the timeless advantage of students being able to communicate face-to-face and to be part of a real, rather than virtual, community.

⑦ There are clearly significant differences between the two types of course, despite the fact that they **share** the same primary aim of providing an educational service. Ultimately, the answer as to which is more effective lies in the priorities of the provider and the students. For some providers, the target is to maximize the number of students who can take their courses; for others, the aim is to provide a high-quality, personalized education. For students who are not able to attend courses in person for financial or geographical reasons, online courses can be an effective solution, but for students who are lucky enough to have the opportunity, traditional courses, at least for now, seem to be the most effective and popular option.

OALD10 を使う

22

©Obunsha Co., Ltd. 2020

“Writing CVs or résumés” では、Language Bank ですぐに使える以下のような有用表現を紹介している。

Near-native command of English

Baccalauréat, série C (equivalent of A levels in Maths and Physics)

The qualifications described below do not have exact equivalents in the British/American system.

Work well as part of a team

Work well under pressure

Oxford iWriterは19のトピックに関するモデル、書き方の説明、ヒント、有用表現を示してくれる。これらに習熟し、アドバイスに従い、ひな形に文を書いていけば、オリジナルのライティングを作成することができる。

Model text、Step-by-step、My textの3つのタブがあり、Model textはモデル（エッセーなど）を示す。Structure（構成）、Notes（各セクションの要点）、Content（モデル）を、それぞれ表示・非表示にできる。Step-by-stepは、そのタイプのライティングの趣旨、構成要素とそれぞれの書き方を教えてくれる。また、モデルにハイライトする形で、有用語句を示してくれる。My textでは、ヒント、有用表現を参考に、各構成要素のボックスに英語を入力していくと独自のライティングを完成することができる。書いたものを保存、出力することもできる。

芸術でもスポーツでも、最初に基本や一定の型を身につけることが後の上達に欠かせない。英語のライティングは決して画一的ではないが、ジャンルによってかなりパターンが決まっている。ライティング力向上に即効薬はないが、iWriterの機能を大いに活用しつつOALD10を参照し、自分の考えを、ステップを踏んで英文にしていけることが、ライティング上達への確実な手段であることは間違いない。

### 3 OALD10 を使い話す

辞書は読み書きをサポートするツールだと想定されている。しかし、世界の多くの英語学習者が最も難しいと感じているのはスピーキングで、発音、会話（表現）、プレゼン、口頭試験対策においてサポートを必要としている。学習者のこれらの要望に応えるべく、従来の辞書の枠組みを超え、書籍では、スピーキングテスト対策やプレゼンテーション能力向上のためのノウハウをまとめた巻末特集Oxford Speaking Tutorが、購入者専用サイトでは、スピーキング能力向上をサポートするコンテンツOxford iSpeakerが第9版より導入された。そして、第10版ではさらなるバージョンアップが図られた。

iSpeakerは、**Sounds**（発音）、**Conversations**（会話）、**Exam Speaking**（口頭試験）の3つの分野で使用者のスピーキング力向上をサポートする。各練習で英音、米音が選択できる。

#### ● Sounds

Soundsでは、単語レベルでの分節音（子音、単母音、二重母音）の発音練習ができる。構成は以下の通りである。

Watch：対象となる音がそれぞれ語頭、語中、語尾に現れる3つの単語をモデルが発音するのを視聴する。

Listen & Record：対象となる音を自分で発音し、それを録音したものをモデルの音声と比べる。

Practise：対象となる音のミニマル・ペア（1つの音素のみ異なる単語のペア [例 pet と bet]）を聞き取る。

Review：正しく発音できたらチェックボックスにチェックを入れる。

## ● Conversations

Conversationsでは、Discussion and opinion、Doubt, guessing, and certainty、Feelings and emotions、Openings and endings、Permissions and obligations、Suggestions and adviceの6つの見出しの下に、39の重要な会話項目が提示されている。構成は以下の通りである。

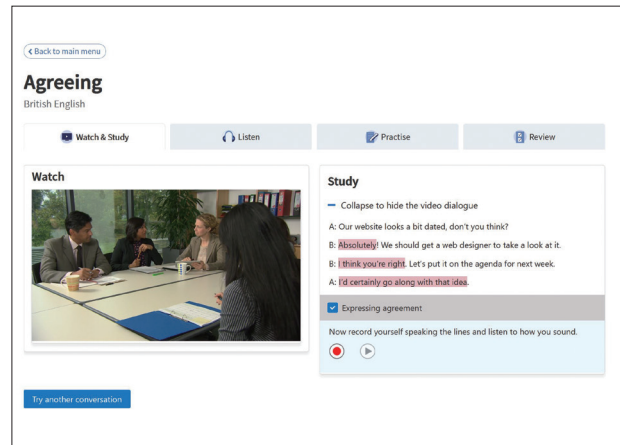
Watch & Study：該当の会話項目に関する短い会話の動画を視聴し、会話のスクリプトを見る。スクリプト下のチェックボックス（右の例では□ Expressing agreement）にチェックを入れると、スクリプト内の該当会話項目表現がハイライトされる。

Listen：関連表現（書籍、オンライン版の該当項目内のExpress Yourselfとほぼ同じもの）の発音練習。録音、再生も可能である。

Practise 1：該当表現のディクテーション、正誤問題、空所補充問題。

Practise 2：自分で会話を作り、発音し、それを録音してチェックする。

Review：チェックリストの内容ができたならチェックボックスにチェックを入れる。



## ● Exam Speaking

Exam Speakingでは、IELTS、TOEIC、TOEFL、ケンブリッジ大学英語検定、トリニティ試験でしばしば問われるタスクについて学習する。構成は以下の通りである。

Watch & Study：問題指示文や関連画像などを確認の上、該当タスクの動画を視聴し、動画のスクリプトを参照する。スクリプト下のチェックボックスにチェックを入れると、そのタスクで重要となる表現がハイライトされる。

Listen：関連表現の発音練習。録音、再生も可能である。

Practise：実際のタスクを行う練習問題。画面右に表示されるTipsでは、タスクを行う上での注意事項やヒントが表示される。

Review：チェックリストの内容ができたならチェックボックスにチェックを入れる。

タスクのうち4つは書籍のSpeaking Tutorでも扱われている（下表参照）。項目、内容に違いがあるので、両方に習熟するとよい。

	Oxford iSpeaker	Oxford Speaking Tutor
Group tasks	Discussing opinions	Discussing opinions
	Negotiating	Negotiating
Individual tasks	Describing a picture	—
	Giving personal information	—
	Talking about a topic	Talking about a topic
Life tasks	Giving a presentation	Oral presentations
	Job interview	—
	—	Successful communication



## Discussing opinions


British English

Watch & Study
Listen
Practise
Review

### Practise

You can record yourself doing these practice tasks with a partner. Look at the Tips and use some of the language from this topic. Make notes before you start if you want to.

#### Task 1



Look at the picture and discuss with your partner why people might choose each type of meal.

Your Notes:

Now record yourself speaking the lines and listen to how you sound.

#### Tips


— Do...

- listen to what the other person says and respond to it.
- use expressions like 'Let's see now', to buy thinking time.
- use questions or question tags like 'isn't it?' to involve the other person in the conversation.
- talk about each of the questions.
- relate your comments to the photographs.
- open out the discussion beyond the questions.
- indicate personal opinions and relate the topic to your own life.

— Don't...

- say things that you know the other person won't understand.
- give one-word answers to a question.
- change to a completely different topic from the task.

#### Task 2



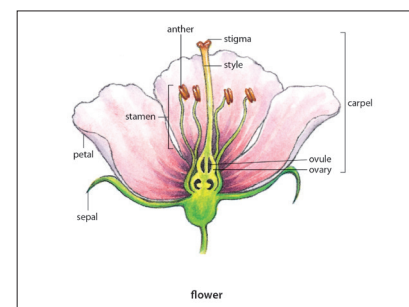
Look at the pictures and discuss with your partner which is the better way to see the world and learn about other countries.

Your Notes:

Now record yourself speaking the lines and listen to how you sound.

## 4 OALD10 を使い語彙を増強する

これまで見てきた通り、OALD10 には語彙を強化するためのさまざまな工夫が凝らされている。関連語を扱った各種コラム類、関連表現への参照、語彙学習の目安となる The Oxford 3000™、The Oxford Phrasal Academic Lexicon™ などがそれである。挿絵も語彙増強に貢献する。特に巻末の Visual Vocabulary Builder (V1-56) は、38のテーマにわたり関連語句を扱ったカラーのボキャビル用絵辞典だ。風景・場面が描かれ構成要素の名称が示されているもの (City (V2-3) など)、これに用例、解説が加えられたもの (The environment (V10-11) など)、類似するものが集められたもの (Trees, plants and flowers (V12-13) など) がある。全体に対する部分が表示されているものもある (例: plant (V13))。Bathroom の挿絵 (V39) は、洗面に使うコップを beaker、トイレの貯水タンクを cistern と言うことを教えてくれる。Cooking (V42-43) は調理法を表す動詞が Preparation と Cooking に分けられ、写真と共に示されている。Stir-fry の写真に使われている鍋が wok であるなど、調理器具への言及もある。Sports (V26-29) では Ping-Pong™ が登録商標であり、卓球のラケットを bat ということも教えてくれる。



今回新たに加わったText Checkerでは、ボックスにテキストを入力すると、そのテキストの単語をCEFRのA1～C1のレベルに分析し、色別に示してくれる。Resultsをクリックすると、CEFRのそれぞれのレベルに何語該当するかの内訳を円グラフと共に示してくれる。More detailをクリックすると、Oxford 3000™、Oxford 5000™、Oxford 5000™にのみ含まれる語、OPALの書き言葉に該当する語を実数とパーセントで棒グラフを併し示してくれる。全単語数、センテンス数、センテンスの平均語数も示してくれる。Activitiesは、CEFRのレベル別、OPALの書き言葉別の語彙リストや空所補充問題の作成の機能である。リストと問題はPDFで出力することもできる。

### ▶購入者専用サイト、アプリ

OALD10の最終ページに記されている12桁のコードを入力すると、購入者専用サイト、アプリへの4年間のアクセス権が付与される。

購入者専用サイトでは、iWriter、iSpeaker、My Word Lists、ビデオ、ワークシートなど授業や自習に使える様々なリソースにアクセスできる。広告は表示されない。My Word Listsは、ボタン（★）一つで見出し語と定義が登録できる機能で、タイトルを付け複数のリストを作り、登録する単語を振り分けることができる。また、登録した単語の定義を読み、その語を綴る形式のテストで記憶を確認することもできる。

アプリでは、DictionaryでSimple searchの他にFull text searchができる。Full text searchは、Head words、Phrases、Idioms、Examplesのカテゴリーで検索が可能である。右上の時計のアイコンをクリックすると検索履歴が示される。Favouritesは、フォルダー、サブフォルダーにお気に入りの単語を登録できる機能である。WebのTopic Dictionariesから採った12のフォルダー（Feelingsなど）がデフォルトで入っている。他にもNews、Quiz、Word of the Day等のメニューがあり、Quizには、語彙に関するクイズが、5問1セットで、100セット用意されている。解き進めていくと正答、誤答の統計が示され、色々なencouragementも与えられるので、楽しみながら語彙増強が図れる。

（→詳細は「OALD10 活用ガイド アプリ／Web編」参照）

### 参考文献

- Carter, Ron. 1998. *Vocabulary: Applied Linguistic Perspectives*. 2nd ed. London: Routledge.
- Hartmann, R. R. K. 2001. *Teaching and Researching Lexicography*. Harlow: Pearson Education.
- 小島義郎. 1984. 『英語辞書学入門』三省堂.
- McArthur, Tom, ed. 1992. *The Oxford Companion to the English Language*. Oxford: Oxford University Press.
- 山田茂. 2014. 『学習英英辞典活用の手引き：英語教育における効果的な辞書指導のヒント』オックスフォード大学出版局.